静岡経済研究所
NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長　馬 瀬 和 人
静岡市葵区追手町1-13
TEL　054-250-8750
FAX　054-250-8770

2025 年 4 月 25 日

静岡県民の幸福度を探る
― 幸福度日本一に向けた現状と課題 ―

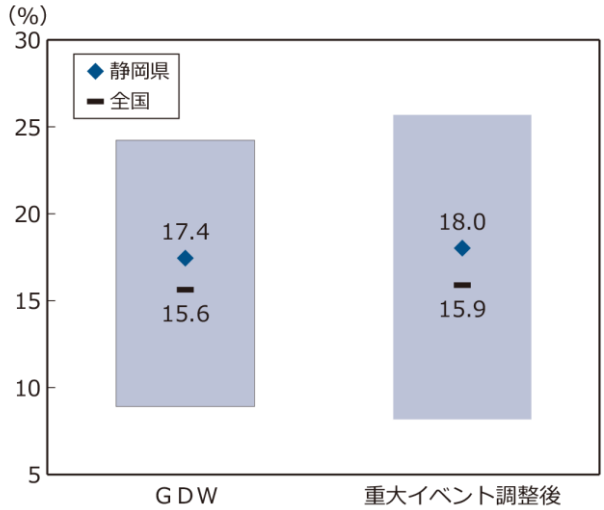
静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、県民一人ひとりが幸福を実感できる社会の創出に向け、内閣府「満足度・生活の質に関する調査」の個票データなどを用いた分析を行い、現状と課題をまとめました。

１．静岡県民の幸福度の現状

静岡県民の総合幸福度は全国平均を上回る水準

○「満足度・生活の質に関する調査」の個票データを用いて独自に算出したＧＤＷ（Gross Domestic Well-being）を用いて総合的な幸福度をみると、九州各地が上位を占める中、静岡県は 17.4%と全国と比べてやや高い水準に位置している（図表１）。また、直近１年間で結婚・離婚や出産、病気、被災などの重大イベントを経験した回答者を除いた値でみても、おおむね同様の結果となっている。

図表１　ＧＤＷ（2024 年）



順位	都道府県名	ＧＤＷ
1	大　分	24.3%
2	兵　庫	22.1%
3	沖　縄	21.5%
4	宮　崎	20.2%
5	福　岡	19.6%
	⋮	
14	**静　岡**	**17.4%**

注１）設問：あなたは全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を０点、「非常に満足している」を 10 点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれか１つだけ選んでください。
注２）上段の棒グラフは上限値から下限値の範囲を示す。

資料：内閣府「満足度・生活の質に関する調査」をもとに当所作成

〈個票データの概要とＧＤＷの算出方法〉

使用データ：内閣府「満足度・生活の質に関する調査」（アンケート形式）
日本国内に住む 15 歳～89 歳のインターネットパネル登録モニターに調査。対象者数は約１万人、うち静岡県は約 200 人（2024 年：全国 10,633 人、静岡県 235 人）。

算出方法　：ＧＤＷは、(一社)ウェルビーイング学会が幸福度測定の国際標準とされる「キャントリルの階梯(かいてい)」という方法を用いて算出しているウェルビーイング指標であり、現在と５年後のウェルビーイング実感を０～10 の 11 段階で評価する設問について、現在が７点以上かつ５年後が８点以上を「高い」、いずれも４点以下を「低い」とした上で、このうち「高い」とした回答者の割合を示したもの。

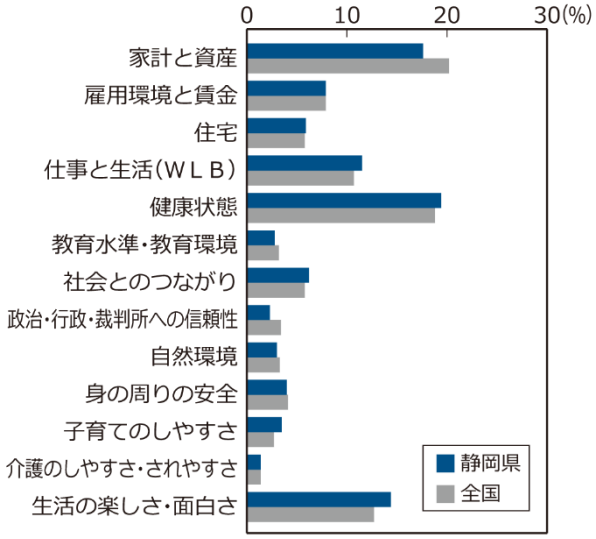
本件のお問い合わせ先：主任研究員　岩間　晴美
研究員　西谷　直樹

先進的な健康増進・防災政策や家計の良好な資産背景に支えられ、一定の幸福度を維持

○満足度を判断する上で「健康状態」や「家計と資産」を重視する人が多い中（図表２）、本県は、重要要素である両者の現状満足度が全国と比べて高いことから、ＧＤＷの水準が比較的高いと思われる（図表３）。このほか、「住宅」や「身の周りの安全」についても全国と比べて優位な水準にある。

○健康の増進と身の安全につながる防災活動に先進的に取り組んできたことや、比較的良好な資産背景から経済的なゆとりと充実した住まい環境を確保できていることが高い満足度につながっている（図表４、５）。

図表２　満足度を判断する上で重視した分野（2024 年）



注１）設問：生活全体の満足度を判断する際に、重視した事項は何ですか。第１位から第３位の順に、それぞれ１つずつ選んでください。
注２）第１位を３点、第２位を２点、第３位を１点で点数化した上で、合計点に占める各分野の割合を算出。
資料：図表１に同じ

図表３　分野別現状満足度（2024 年）

(%)

重要度		静岡県	偏差値※	全国
↑高	健康状態	41.3	62.9	36.2
	家計と資産	30.6	58.8	27.3
	生活の楽しさ･面白さ	41.3	55.6	39.0
	仕事と生活(ＷＬＢ)	33.2	55.2	31.3
	雇用環境と賃金	24.7	56.4	22.7
	社会とのつながり	33.6	55.6	31.7
	住宅	40.9	58.0	37.5
	身の周りの安全	42.1	60.7	38.4
	子育てのしやすさ	28.9	59.9	25.4
	自然環境	34.9	53.7	33.5
	教育水準･教育環境	36.2	54.4	34.2
	政治･行政･裁判所への信頼性	18.7	64.5	15.4
低↓	介護のしやすさ･されやすさ	16.6	48.5	17.0

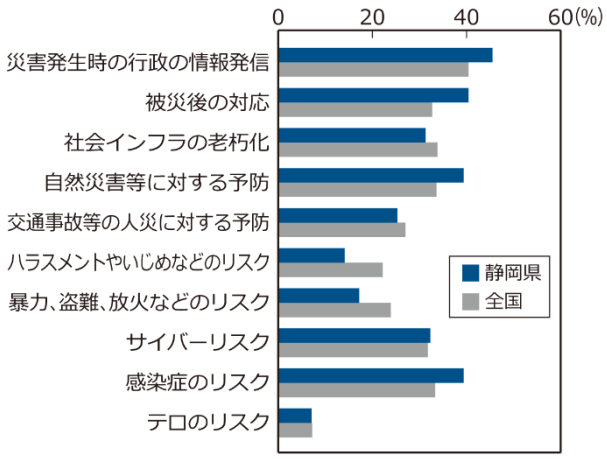
※偏差値：平均値を 50 として基準を定め、その基準からどれくらいの差があるかを示す値。
注）それぞれの現状満足度における７点以上の回答割合。
資料：図表１に同じ

図表４　分野別満足度に関する客観指標

指標名	調査年	静岡県	全国
健康寿命（男性）	2019年	73.45歳	72.68歳
健康寿命（女性）	2019年	76.58歳	75.38歳
１世帯当たり年間可処分所得金額	2019年	5,018千円	4,915千円
１世帯当たり純資産額	2019年	29,330千円	28,337千円
持ち家住宅率	2023年	67.4%	60.9%
１住宅当たりの延床面積	2023年	103.26㎡	91.66㎡

資料：ウェブサイト「厚生労働科学　健康寿命のページ」、総務省「全国家計構造調査」、総務省「住宅・土地統計調査」をもとに当所作成

図表５　現在の満足に大きく影響している事項（身の回りの安全、2024 年）



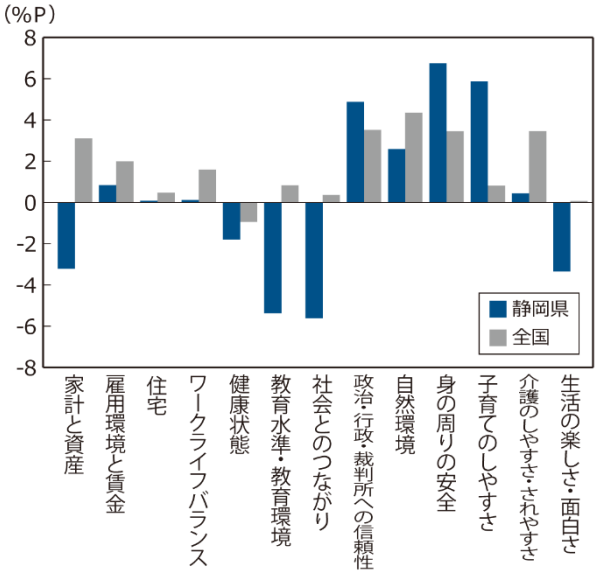
注１）設問：あなたの「○○（分野）」に関する現在の満足や不満に大きく影響しているものはどれですか（複数選択可）。
注２）「身の回りの安全」の満足度７点以上の回答者を抽出し、選択肢別の回答割合を集計。
資料：図表１に同じ

２．県民一人ひとりが幸福を実感できる社会の創出に向けた課題

教育水準・環境、社会とのつながり、介護のしやすさ・されやすさに対する満足度の持続性に懸念

○分野別現状満足度の経年変化をみると、コロナ禍前から足もとにかけて、全国は「健康状態」以外の全ての分野が上昇している一方、本県は５つの分野で低下しており、特に「教育水準・教育環境」と「社会とのつながり」は低下幅が著しい（図表６）。また、２頁図表３のとおり他の要素と比べて満足度が低い分野でありながら上昇幅が小幅な「介護のしやすさ・されやすさ」も気がかりである。そして、これら要素に対しては、将来不安を抱く回答者が多く、政策的なケアが必要である（図表７）。

図表６　分野別の現状満足度の変化（2020 年→24 年）



注）2020 年は、調査期間がコロナ本格流行前の 2/7～2/20 であるため、同調査年をコロナ禍前としている。

資料：図表１に同じ

図表７　分野別にみた将来不安の度合い（2024 年）

(%)

重要度		静岡県	偏差値	全国
↑	健康状態	37.4	66.1	31.2
高	家計と資産	27.7	56.3	25.3
	生活の楽しさ･面白さ	37.4	55.6	35.3
	仕事と生活（ＷＬＢ）	27.7	50.8	27.4
	雇用環境と賃金	23.8	58.6	21.1
	社会とのつながり	25.5	42.6	28.2
	住宅	35.7	56.5	33.2
	身の周りの安全	34.0	55.0	32.3
	子育てのしやすさ	23.0	49.1	23.2
	自然環境	31.5	56.5	29.4
低	教育水準･教育環境	31.1	49.2	31.4
	政治･行政･裁判所への信頼性	14.9	48.4	15.3
↓	介護のしやすさ･されやすさ	15.7	47.7	16.4

注１）設問：将来を考えた時、生活に関するさまざまな分野における不安の度合いについて、「非常に不安である」を０点、「全く不安でない」を 10 点とすると、何点くらいになると思いますか。
注２）将来の評価が７点以上の回答者の割合。
注３）数字が小さいほど、高い不安を表す。

資料：図表１に同じ

教育の弱さを示唆する指標が散見され、教育政策の検証とアップデートが急務

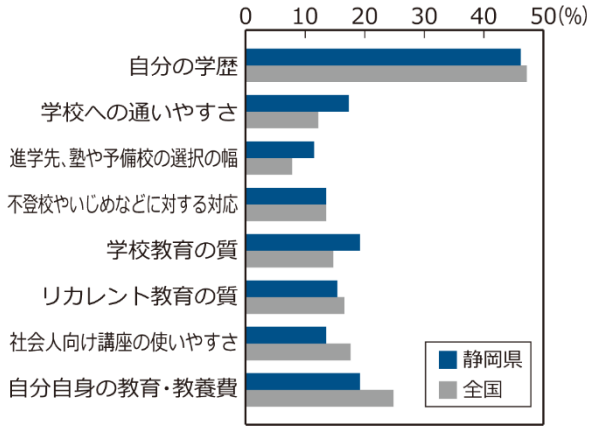
○教育水準・環境に対して不満と答えた人のうち、現在の不満に大きく影響しているものについて「自分の学歴」を挙げる人が最も多く、全国との比較では、「学校への通いやすさ」や「進学先、塾や予備校の選択の幅」、「学校教育の質」の回答割合が高い（次頁図表８）。本県は、大学進学希望者数に対する入学定員数の割合が46.5%・全国ワースト５位（2023年度、文部科学省調べ）と大学の選択肢が少なく、安全面の不安などを理由に地元進学志向が高い女子生徒を中心に大学進学率が低い（次頁図表９）。また、教員１人当たりの児童生徒数は全国ワースト６位の多さ（2024年度学校基本調査をもとに算出）であるほか、自治体や教育委員会が学校以外での教育活動のために支出する社会教育費も人口１人当たりで全国ワースト３位と少ない（2022年度、地方教育費調査、国勢調査、人口推計をもとに算出）。このように、ヒト・カネ・ハコといった教育リソースが足りておらず、教育の質や環境充実度に対する県民の不安が募り始めており、教育政策の検証とアップデートが急務である。

交流にかける時間が年々減少　地域・企業のコミュニケーションづくりが重要

○社会とのつながりの不満要素については、「困ったときに頼りになる友人・知人がいるかどうか」を挙げ

る人が最も多く、全国との比較では、「友人との交流頻度」や「困ったときに頼りになる職場の同僚・上司がいるかどうか」などの回答割合が高い（図表10）。コロナ禍を契機にデジタル技術の社会実装が急速に進んだことで、仕事や買い物、外食などの日常・社会生活が自宅で完結できるようになった一方、対面交流が減少し（図表11）、孤独・孤立に対する不安が高まっており、地域・企業によるコミュニケーションの後押しが求められる。

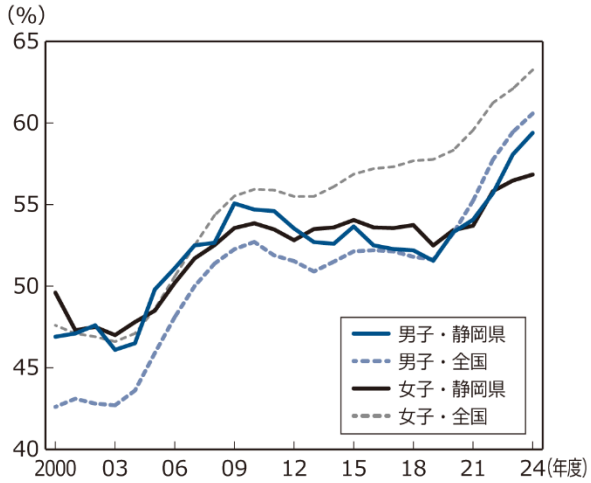
図表８　現在の不満に大きく影響している事項（教育水準・教育環境、2024 年）



注）「教育水準・教育環境」の満足度４点以下の回答者を抽出し、選択肢別の回答割合を集計。

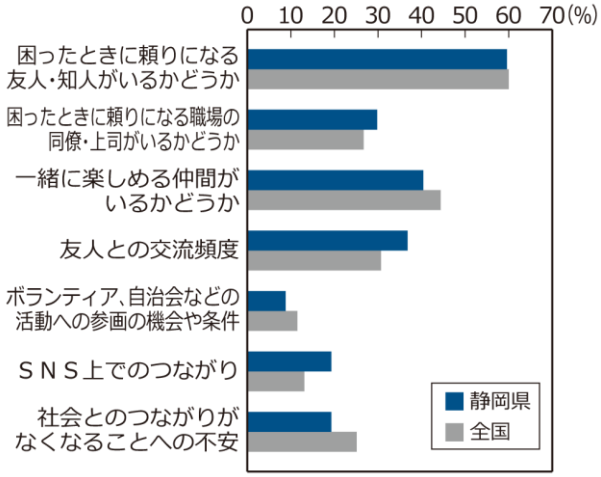
資料：図表１に同じ

図表９　大学進学率（現役）の推移



資料：文部科学省「学校基本調査」

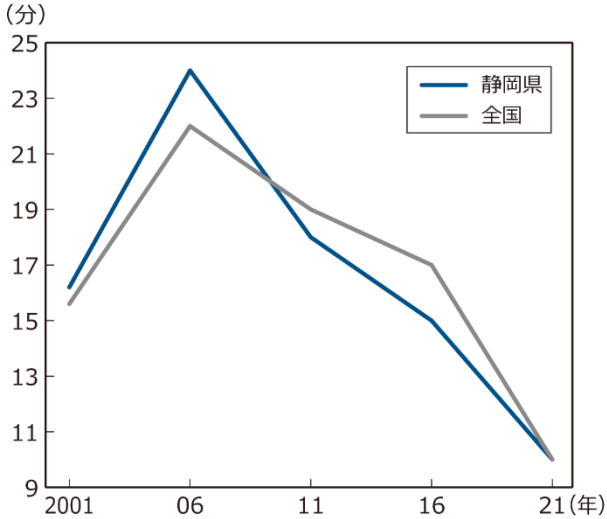
図表 10　現在の不満に大きく影響している事項（社会とのつながり、2024 年）



注）「社会とのつながり」の満足度４点以下の回答者を抽出し、選択肢別の回答割合を集計。

資料：図表１に同じ

図表 11　交際・付き合いの１日当たり総平均時間の推移



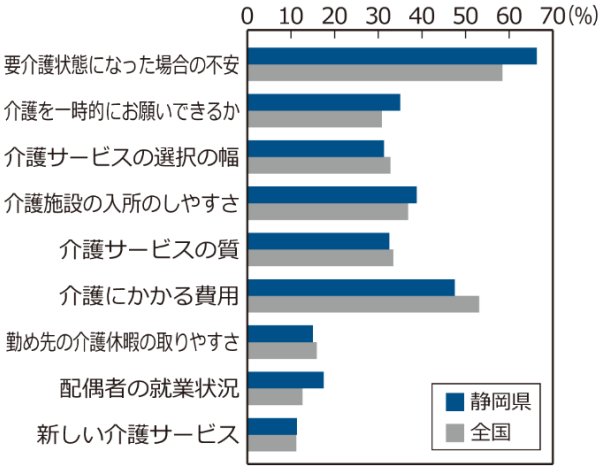
資料：総務省「社会生活基本調査」

要介護・支援認定者の増加が予想される中、介護サービスの供給力が課題

○介護の不満要素については、「（自分や自分の家族が）要介護状態になった場合の不安」を挙げる人が最も多く、全国との比較では、「介護（する人の世話）を一時的にお願いできる（人がいる）か」や「介護の入所のしやすさ」などの回答割合が高い（次頁図表12）。本県では、今後、高齢化が全国よりも早いペースで進み、要介護・支援認定者の急増が予想される一方（次頁図表13）、人口10万人当たりの介護老人福祉施設数は全国35位、訪問介護員数は全国40位（23年、介護サービス施設・事業所調査、国勢調査、人

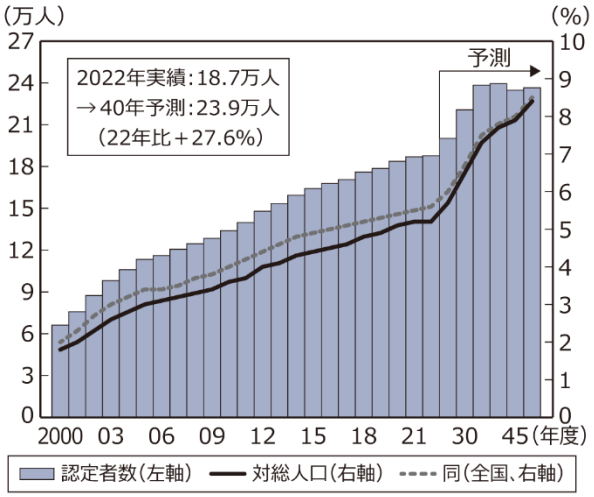
口推計をもとに算出）と他地域に比べて少ないため、自分自身や家族に介護が必要になったときの不安が高まっている。これまで介護予防の推進により健康寿命を延ばしてきたが、これからは、施設・在宅双方の介護サービスをバランスよく整備することが望まれる。

図表 12　現在の不満に大きく影響している事項（介護のしやすさ・されやすさ、2024 年）



注）「介護のしやすさ・されやすさ」の満足度４点以下の回答者を抽出し、選択肢別の回答割合を集計。
資料：図表１に同じ

図表 13　要介護・支援認定者の推移（静岡県）



注）2022 年度の年齢階級別認定率を将来推計人口に乗じて推計。
資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」、総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」をもとに当所作成

３．まとめ

○これら課題の解決に向けては、産学官の連携が欠かせない。幸福の多寡は、日常・学校・社会生活のすべてに起因しているほか、人々の価値観が多様化しているがゆえに、個々の課題は複雑さを増す一方で政策リソースはさらに限られてくる。今後は、地域や自治体、学校、企業などが幸福度向上に向けてベクトルを揃え、県民一人ひとりが幸福を実感できる社会を共に創ることを期待したい。